

大学生の Twitter の行動規範に関する分析

菅原 真紀

ソーシャルメディアとは、『インターネット白書 2012』によれば、“友人や知人らとのコミュニケーションや交流を促進する場あるいは仕組みで、友達やフォロワーといったつながりを有するインターネット上のサービスであり、具体的には、SNS とマイクロブログ”と定義されている。これまで、不特定多数のユーザが存在するインターネット上では個人の情報を明かすといった行為は望ましくないと認識されてきた。しかし、ソーシャルメディアでは、上記の定義からも明らかなように、他者との「繋がり」が重視されている。そのため、これまでと異なる意識でソーシャルメディアが利用されていると予想されるが、実際にどのように行動し、どのような意識を持っているかは明らかではない。本研究では、ソーシャルメディアをどのように利用すべきであるかという意識を行動規範と定義し、実際の行動と行動規範を明らかにする。特に今回はソーシャルメディアの中から Twitter を研究対象として取り上げ、Twitter の主要な利用者層である大学生が、ソーシャルメディアには行動規範は存在するか、どのような行動規範があるか、それらはどの程度共有されているか、また実際に行動規範に従って行動しているかを明らかにすることを目的とする。

調査は全国の国私立大学 13 校の学部生を対象とし、Web アンケート調査を実施した。Twitter の利用状況や Twitter 上での実際の行動、行動規範についての設問 38 問を集計・分析した結果、以下のような結果が得られた。

まず、いくつかの行為に対し、強い肯定・否定の意である「すべきである」「すべきでない」等の意識を持って、その意識に従った行動をしていることが読み取れた。「すべきでない」という共通の意識の下、行動をしているという点で、行動規範は存在していると言える。次に、個人情報の取り扱い、特に直接的に情報を開示することには「すべきでない」とする意識が広く共有されており、実際にもしていないとする回答者が多い結果となった。Twitter 上のマナー等については、ユーザそれぞれの考えはあるものの、個人の自由意思に任せられたゆるやかなルールのようなものであると考えられる。また、性別によって共有される行動規範は異なっていた。しかし、アカウントの公開・非公開によってはそれほど大きな差は見られなかった。また利用度によって行動に差はあるが、行動規範はどの利用度のユーザでもある程度共有されていると示唆された。

今後は教育でソーシャルメディアに関連した内容が扱われることが考えられるため、同様の調査を今回の対象者よりも年少の世代へ対象を拡大すること、また、今回は Twitter を扱ったが、Facebook 等他のソーシャルメディアや従来のメディアにおける行動規範と比較することが今後の課題として挙げられる。

(指導教員 池内淳)